



◆ アトピー性皮膚炎ってどんな病気？

アトピー性皮膚炎は、良くなったり(寛解:かんかい)悪くなったり(増悪:ぞうあく)を繰り返す、かゆみのある湿疹を特徴とする皮膚疾患です。多くの患者さんは皮膚が乾燥しやすい素因(ドライスキン)とアトピー素因(アレルギーを起こしやすい体質)を持っています。

◆ アトピー性皮膚炎ってなぜ起こるの？

アトピー性皮膚炎の原因は、はっきりとはわかっていませんが、遺伝による体質に、環境などが強く関係して発病すると考えられています。それぞれにはアレルギーに関係するものと、それ以外のものがあります。これらは発病にきっかけになると同時に、症状を悪化させる原因にもなります。

体質に関連する要因	<ul style="list-style-type: none"> ・アトピー素因 ・皮膚が乾燥しやすい素因(ドライスキン)
環境に関連する要因	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーに関連するもの(アレルギー的因子) <ul style="list-style-type: none"> →食物(卵、牛乳、小麦や大豆)、ダニなど ・アレルギー以外のもの <ul style="list-style-type: none"> →汗、乾燥、掻くことなど



◆ 検査って必要？

アトピー素因を持った方に皮膚の炎症を起こさせる原因物質(アレルゲンを含む)を見つけるために血液検査や皮膚検査を行うことがあります。ただし、これらはあくまでも診断の目安にされるもので、症状に合わせての診断となります。(☆当院では血液検査を行うことができます☆)

血液検査の必要性や項目については、診察にて医師と相談になります。

◆ 症状について

アトピー性皮膚炎は、年齢によって皮膚の症状が変化するのが特徴です。



乳児期
(1歳未満)

初めは顔や頭に、その後次第に全身に、じくじくした腫れやぶつぶつが現れます。頭や眉毛には、黄色いかさぶたのような湿疹ができます。これらの症状は、アトピー性皮膚炎でない乳児にも見られるもので、自然に治ることも多いため、すぐにアトピー性皮膚炎と診断することはできません。**症状が2か月以上続いた場合に、アトピー性皮膚炎の可能性が出てきます。**

幼児・小児期
(1歳～15歳ころ)

この時期になって初めて、アトピー性皮膚炎の症状がはっきりしてきます。乳児期はじくじくした湿疹でしたが、この時期には全体が乾燥し、カサカサしてきます。肘や膝の裏など関節の内側には、あせものような発疹やじくじくした発疹が見られ、ごわごわした皮膚になることも多くあります。首にもよく見られます。

◆ 治療について

アトピー性皮膚炎の治療には「薬物療法」「スキンケア」「原因・悪化因子の除去」の3本柱があります。(☆スキンケアについては先月号のクリニック通信をご覧ください☆)

薬物療法 適切に正しく薬を使うことで、症状を早く改善します。アトピー性皮膚炎治療の外用薬としては、ステロイドの塗り薬とステロイド以外の免疫抑制薬があります。他にはかゆみを抑えるために、抗ヒスタミン薬や抗アレルギー薬を内服したりすることもあります。どの薬を組み合わせて使用するかは医師が診察して判断します。

悪化要因の除去 症状の原因となっているものや悪化をさせる可能性があるものを探し出し、それを取り除くことも大切です。要因となる食物の除去や食物や生活環境を整え、皮膚を清潔に保つことで、出来る限り悪化要因を取り除きましょう。原因の特定には、専門の医師による診断や検査が必要です。

今月の絵本

おおきな木

シェル・シルヴァスタイン
村上 春樹 訳

たくさんの愛情を注ぎ、自分の身を削ってでも必要なものを与える大きな木の姿は、愛するわが子を想う母親のよう。喜びや悲しみなどの共感できるさまざまな感情が伝わってきます。



おしらせ

★☆☆子育て川柳 大募集★☆☆

家事・育児で大忙しのお父さん、お母さん!!
こどもへの思い、日々の愚痴などを5・7・5でうたってください!月1回、大賞を決定しクリニックから粗品を差し上げます。ぜひふるってご参加ください。
なお、作品は匿名で院内掲示とクリニック通信に記載させていただきますのでご了承ください。



次回のテーマは「そらいろこどもクリニック開院2周年」の予定です。
★☆☆おたのしみに★☆☆